

## 知っておきたい！橋の歴史、種類と役割～身近な橋から長大吊橋まで～の事後アンケート まとめ

開催日：2026年8月5日

参加者：36名（小学校：23名 中学校：7名 特別支援学校：6名）

定員：40名

### 1. 受講した理由

この講習の受講を選んだ理由としては、「講義だけでなく、見学や実習などがあるから」が72.2%と最も多く、体験を伴う研修への期待が高かった。

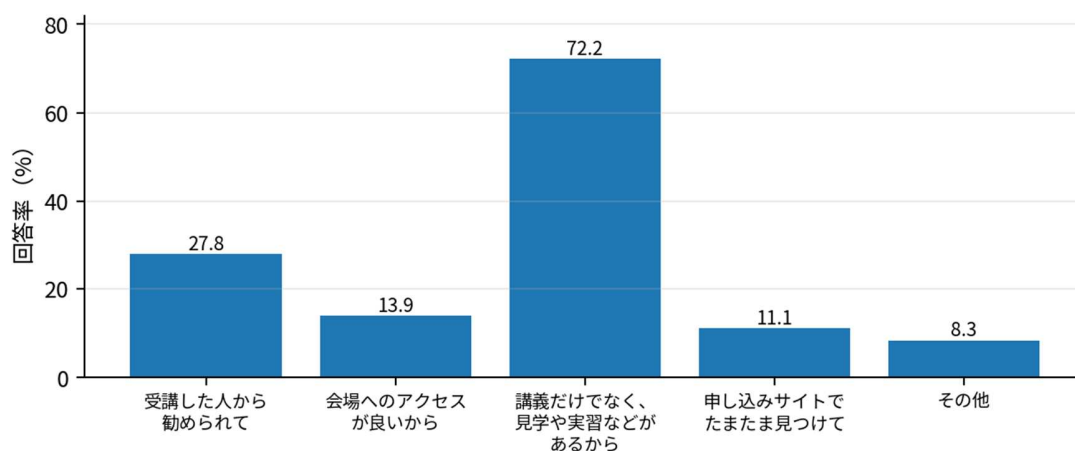


図1 講習の受講を選んだ理由 (N=36)

### 2. 講義の効果

#### A) 橋の種類・構造と力学的な仕組みへの理解

○「橋の種類や構造」「斜張橋と吊橋の違い」「同じ材料でも形や使い方によって強さが変わる事」など、橋の基本的な仕組みに対する理解が深まったという回答が多かった。

#### B) 講義と現地見学を組み合わせたことによる理解の深化

○講義で学んだ後に実際の明石海峡大橋を見学する構成が高く評価され、「座学の知識が分かりやすかった」「知識の定着につながる」「専門の方に教えていただきながら現場を見ることができる環境が最高」といった意見があった。

#### C) 長大橋を支える技術・維持管理への認識

○明石海峡大橋の建設方法だけでなく、安全管理や保守の仕組みについても理解が進み、インフラを造る技術に加えて、長期間にわたり維持・管理することの重要性が認識された。

#### D) 日常生活・学校教育とのつながり

○「日常の生活の中で橋をもっとよく見ようと思う」「小学校での学習にも活かせる」とする回答があり、身近な橋を教材として捉える視点や、理科・社会等の学習につながる気づきが得られていた。

#### E) 改善点からみた講習の分かりやすさ

○改善点は「特になし」「分かりやすかった」とする回答が大半であった。一方、力学の知識がなく分かりにくい部分があったという意見や、橋模型の载荷実験を実際に行ってみたかったという要望もみられた。

#### F)「土木」に対するイメージの変化

○自由記述から、土木を「建設」や「力仕事」として捉えるだけでなく、科学技術、維持管理、物流、防災などを通じて生活を支える幅広い分野として認識する変化がみられた。

| 受講前のイメージ             | 受講後のイメージ（認識の転換）                                                 |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 「土」と「木」、山や川などに関わるもの  | 橋・道路・都市開発・水関係など、生活を支える幅広い分野<br>「『土木』と一口に言っても様々な種類がある」           |
| 建設、道路、力仕事というイメージ     | 物理・力学を含む多様な知識と技術の結集<br>「物理など様々な知識が必要だと思いました」                    |
| 自分には遠い、あまり考えたことのない分野 | 日常生活と密接に関わる身近な社会基盤<br>「土木は人々の生活にかかせない、大切な役割がある」                 |
| 造ることが中心というイメージ       | 計画・建設から安全管理・維持管理まで長期に社会を支える仕事<br>「計画やメンテナンスなど、時間的なスケールの大きさも感じた」 |

表1 「土木」のイメージの変化

### 3. 今後受けてみたい講習内容

今後受けてみたい内容では、防災学習（地震）が72.2%で最も多く、防災学習（水害・土砂）も63.9%と高かった。地域の交通（41.7%）、上下水道（38.9%）への関心も高く、自由記述ではダム、河川・治水、上下水道、建設中の道路・鉄道、インフラの維持管理など具体的な見学希望が挙げられた。

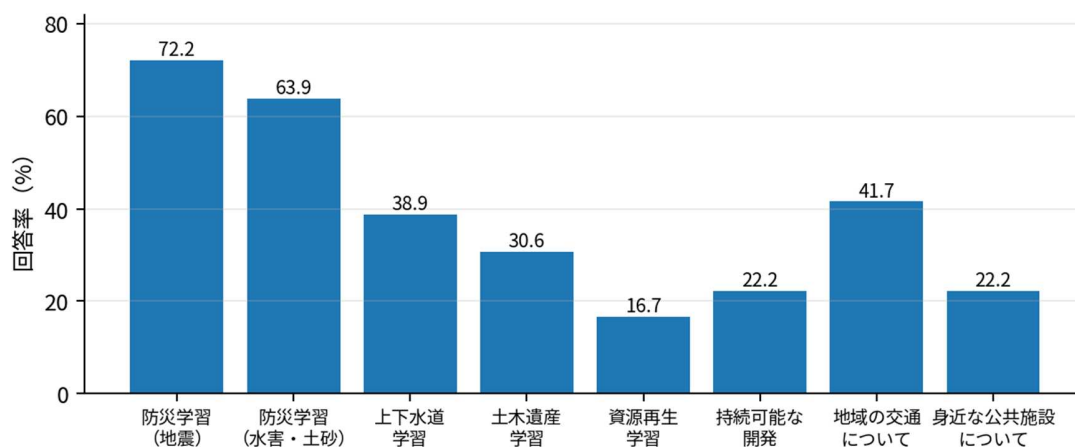


図2 受けてみたい講習内容 (N=36)